

原 著

肺結核患者ノ尿中「ヒスチジン」ニ就テ

(其二)動的觀察(經口的負荷試験)

大阪市立刀根山病院(院長 太繩博士)

醫學士 山 名 利 治

[内容抄録]

健常者男子 10 例、女子 9 例計 19 例及び肺結核患者男子 51 例、女子 29 例、計 80 例ニ就キ、鹽酸「ヒスチジン」3 瓦ヲ内服セシメ逐次的ニ探尿シテ、ソノ尿中ニ排泄セラル、狀態ヲ觀察シタルニ、10mg%以上ノ陽性例ハ健常者デハ 89.5%ナルニ對シ、患者デハ 67.8%ニシテ、排泄時間モ患者ノ場合デハ少シク遅延セルヲ認メタリ。病症別ニ之ヲ觀ルニ、未ダソノ間ニ明確ナル差異ヲ認メ難ク、又ソノ基因スル所ヲ未ダ闡明スルニハ至ラザルモ、陰性例ニハ重症者が最も多カリ、シハ興味深キ所ナリ。

(本論文ノ要旨ハ第 14 回日本結核病學會總會ニ於テ口演セリ)。

目 次

第一章 緒 言	第二項 女子ノ場合
第二章 検査材料及び検査方法	第三節 患者ニ就テ
第一節 検査材料	第一項 男子ノ場合
第二節 検査方法	第二項 女子ノ場合
第三章 検査成績	第三項 病症別
第一節 成績分類法	第四章 總括及び考按
第二節 健常者ニ就テ	第五章 結 辭
第一項 男子ノ場合	文 獻

第一章 緒 言

曩ニ余ハ第 1 報(1)ニ於テ計數的觀察ノ成績ヲ發表セリ。而シテ本報ニ於テハ動的觀察トシテ經口的負荷試験ヲ行ヒ、ソノ得タル結果ヲ報告セントス。

今、「ヒスチジン」(「ヒ」ト略ス)ノ生理學的竝ニ藥理學的研究及びソノ他ニ關スル文獻ヲ按ズルニ、先進諸家ニ依テ爲サレタル業績ハ枚舉ニ遑ナキガ如シ。(2)―(53)。(68—78)。而シテ近

時胃及び十二指腸潰瘍或ハ皮膚(又ハ粘膜)潰瘍ニ對シテ、「ヒ」ヲ非經口的又ハ經口的ニ或ハ直接潰瘍面ニ應用シテ、ソノ治療の效果ヲ論ズル業績モ亦相次イデ報告セラレツ、アリ。(54)―(67)。然レドモ特ニ肺結核患者ニ「ヒ」ヲ與ヘテ、ソノ尿中ニ排泄セラル、狀態ヲ檢討シタルモノ、余ハ寡聞ニシテ未ダ之アルヲ知ラズ。依テ本實驗ヲ企テタルモノナリ。

第二章 検査材料及ビ検査方法

第一節 検査材料

患者ハ大阪市立刀根山病院ニ入院中ノモノ、男子 51 例、女子 29 例、計 80 例ニシテ、対照トシタル健常者ハ本院ノ職員ニシテ、男子 10 例、女

子 9 例、計 19 例ナリ。尿ハ逐時尿ニシテ、使用セル鹽酸「ヒ」ハ川崎製ノモノナリ。

第二節 検査方法

「ヒ」投與ハ總テ經口の方法ヲ撰ビタリ。又尿中「ヒ」ノ證明法ハ第 1 報ノ場合ト同様 Kapeller-Adler 氏法ナレドモ、新鮮ナル逐時採取尿ヲ以テセリ。

實施方法トシテハ患者ニハ検査ノ前日ヨリ鹽酸「リモナーデ」ノミヲ與ヘ置キ、(計 3 日間)、第 1 日ハ午前 5 時(又ハ 6 時)ヨリ逐時のニ 6 回(又ハ 5 回)採尿セシメ、第 2 日ハ同様ニ採尿スレドモ、第 2 回目採尿直後ニ鹽酸「ヒ」3 ヲツ

ノ儘一時ニ内服セシメタリ。(此鹽酸「ヒ」ノ 3 ヲツハ中等量ニシテ、特ニ實驗の根據アルニ非ズ。假ニ適當量ナリト考ヘタルモノナリ)⁽²³⁾。

又兩日トモ朝食ヲ缺食セシメ、清水(實施當初ハ若干ノ砂糖水ノ飲用ヲ許シタルコトアルモ極メテ少數ナリ。)ノ飲用ヲ許シタル外、検査ニ對シ影響ヲ與フルガ如キ藥劑又ハ飲食物ノ攝取ヲ嚴ニ禁ジタリ。健常者ノ場合モ亦之ニ準ゼリ。

第三章 検査成績

第一節 成績分類法

検査成績ノ一端ヲ記スレバ第 1 表ノ如シ。

而シテ余ハ尿中排泄状態ヲ圖示シテ得タル、所

謂排泄曲線型ヲ 11 種類ニ區別セリ(排泄曲線型略圖参照)。

第 1 表

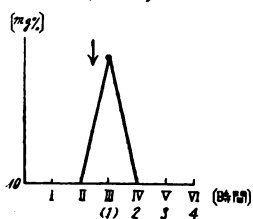
番號	姓	年	日附	尿量	反應	「ヒ」量	試 I	「ウ」	「イ」	排泄曲線番號	備考
1	健	31	6/3	1	170(耗)	酸性	／	3.5(耗)	++		
				2	35	„	／	2.5			
				3	80	„	／	1.5	±		
				4	60	„	／	2.0	±		
				5	220	„	／	1.0	—	Nr. 1	
				6	62	„	／	2.0	±		
			7/3	1	97	酸性	／	2.5	++		
				2	20	„	／	2.5	++		
				3	34	„	14.2(mg%)	2.0	+	[14.2mg%]	
				4	132	„	／	1.5	—	(96.6mg%)	
				5	143	„	／	1.0	—		
				6	230	中性	／	1.0	—		
				1	205(耗)	酸性	12.6(mg%)	2.5(耗)	+		
				2	240	„	11.4	„	+		

7	↑ 健	45	11/3	3	202	„	/	2.0	±		
				4	180	弱酸性	/	1.0	—		
				5	240	„	/	„	—	Nr. 2	
				6	45	„	/	1.5	±		
				1	166	弱酸性	/	2.8	卅		
				2	136	„	/	„	卅		
			12/3	3	59	酸 性	/	2.3	++	[18.1mg%]	
				4	80	„	18.1(mg%)	„	卅		
				5	94	„	/	1.5	++	(289.6mg%)	
				6	270	弱酸性	/	1.0	±		
				1	330(耗)	酸 性	/	2.0(耗)	++		
				2	136	„	/	„	+		
5	↑ 健	26	8/3	3	171	„	/	1.5	—		
				4	220	弱酸性	/	1.0	—		
				5	214	„	/	„	—	Nr. 3	
				6	120	„	/	1.5	±		
			9/3	1	340	酸 性	13.2(mg%)	2.0	±		
				2	240	„	/	1.5	±		
				3	53	„	45.0	3.0	±	[86.4mg%]	
				4	48	„	41.2	„	±	(874.6mg%)	
				5	210	弱酸性	/	1.0	—		
				6	280	„	/	„	—		
2	↑ 健	32	6/3	1	250(耗)	弱酸性	/	1.0(耗)	—		
				2	180	„	/	„	—		
				3	180	„	/	„	—		
				4	150	„	/	„	—		
				5	180	酸 性	/	„	—	Nr. 4	
				6	52	„	/	2.0	+		
			7/3	1	200	酸 性	/	1.5	+		
				2	83	„	/	„	±		
				3	66	„	13.4(mg%)	„	±	[33.2mg%]	
				4	58	„	19.8	„	±		
				5	152	„	/	1.0	—	(407.6mg%)	
				6	260	弱酸性	/	1.5	—		
4	↑ 健	24	7/3	1	300(耗)	酸 性	13.2(mg%)	2.5(耗)	++		
				2	56	„	13.7	„	++		
				3	44	弱酸性	/	2.0	卅		
				4	52	„	/	„	++		
				5	40	„	/	„	++	Nr. 5	
				6	49	„	/	„	卅		
			8/3	1	250	酸 性	11.6	2.0	+		
				2	26	„	31.0	3.0	++	負 荷 後	
				3	33	„	54.2	3.5	++	(835.1mg%)	
				4	26	„	23.8	„	卅		
				5	45	„	13.0	3.0	++		
				6	102	„	11.6	2.5	+		

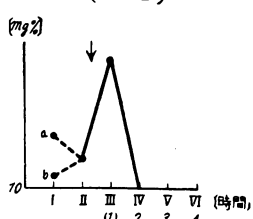
39	中	36	28/6	1	102(耗)	酸性	弱+	1.8	+		
				2	30	..	弱+	2.0	+		
				3	86	弱酸性	/	1.0	-		
				4	30	中性	/	..	-		
				5	68	..	/	..	±		Nr. 6
				6	54	..	/	1.5	±		
			29/6	1	132	酸性	/	1.5	±		
				2	62	..	/	2.0	+		
				3	37	..	70.7(mg%)	2.4	+		[105.8mg%]
				4	87	..	/	1.4	-		
				5	46	..	35.1	1.5	±		(846.1mg%)
				6	168	中性	/	0.7	-		
22	輕	14	15/2	1	240(耗)	酸性	21.0(mg%)	2.5(耗)	++		
				2	50	..	13.0	2.0	+		
				3	30	..	15.3	..	+		
				4	100	弱酸性	/	1.0	±		
				5	210	中性	/	..	-		Nr. 7
				6	25	弱酸性	/	1.5	±		
			16/2	1	180	酸性	/	2.5	++		
				2	60	..	/	2.0	±		
				3	80	..	14.6	1.5	±		[81.6mg%]
				4	60	..	50.4	..	-		(971.2mg%)
				5	40	弱酸性	16.6	..	±		
				6	50	..	/	2.0	+		
1	重	23	17/2	1	260(耗)	酸性	/	2.5	±		
				2	120	..	/	..	±		
				3	40	..	/	..	+		
				4	50	..	/	..	±		
				5	70	弱酸性	/	2.0	±		Nr. 8
				6	60	酸性	/	2.5	+		
			18/2	1	230	酸性	/	2.5	+		
				2	60	..	/	..	+		
				3	30	..	/	..	++		
				4	30	..	14.0(mg%)	..	+		[24.2mg%]
				5	30	..	10.2	..	+		(145.2mg%)
				6	40	..	/	..	+		
11	中	40	30/10	1	99(耗)	中性	/	1.7(耗)	±	-	
				2	100	..	/	1.4			
				3	57	..	/	2.3			
				4	40	..	/	1.6			
				5	33	..	/	1.8			Nr. 9
				6	113	..	/	0.8			
			15/10	1	44	弱酸性	/	1.8	±	+	
				2	19	..	/	2.2			
				3	24	酸性	/	1.8	-		[62.1mg%]
				4	33	..	42.1(mg%)	2.0			(385.6mg%)

28	早中	20	18/11	5	35	..	/	1.9				グメリン氏反應(±) 月經(七月ヨリナシ)蛋白(痕跡)
				6	27	..	20.0	2.1				
				1	26(耗)	酸性	19.8(mg%)	3.5(耗)	++			
				2	21	中性	弱+	2.8	++			
				3	30	..	/	2.7				
				4	40	..	/	2.6				
			19/11	5	47	弱酸性	/	1.8			Nr. 10	
				6	124	..	/	1.0				
				1	280	弱酸性	/	1.9	+	±		
				2	23	酸性	15.9(mg%)	2.9				
				3	20	弱酸性	20.7	..			(負荷後) 754.0mg%	
				4	20	..	46.4	3.2				
23	早中	51	13/11	1	58(耗)	中性	/	1.0(耗)	-	-		月經(無)
				2	12	酸性	/	1.1				
				3	26	..	/	1.2				
				4	44	..	/	0.9			Nr. 11	
				5	54	..	/	0.8				
				6	81	..	/	0.7				
			14/11	1	240	酸性	27.0(mg%)	1.7	±	±		
				2	78	中性	/	1.1			[33.8mg%]	
				3	320	..	/	0.3				
				4	35	酸性	/	1.1			(250.1mg%)	
				5	26	..	弱+	..				
				6	37	..	33.8	..				
7	↑重	36	21/2	1	80(耗)	弱酸性	-	2.5(耗)	++			喉頭結核(?), ワイス氏反應(++) (死)
				2	38	..	-	3.0	++			
				3	25	..	-	..	++			
				4	40	..	-	..	++			
				5	25	..	-	..	++			
				6	29	酸性	-	..	++		(-)	
			22/2	1	70	酸性	-	3.5	++			
				2	40	..	-	..	++			
				3	36	..	-	..	++			
				4	21	..	-	4.0	++			
				5	40	..	-	..	++			
				6	25	..	-	..	++			

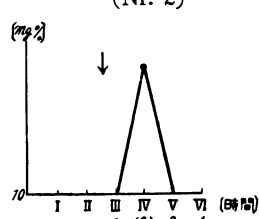
(Nr. 1)

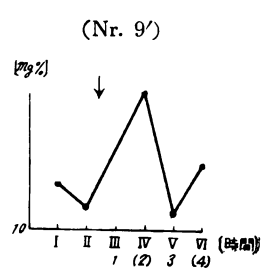


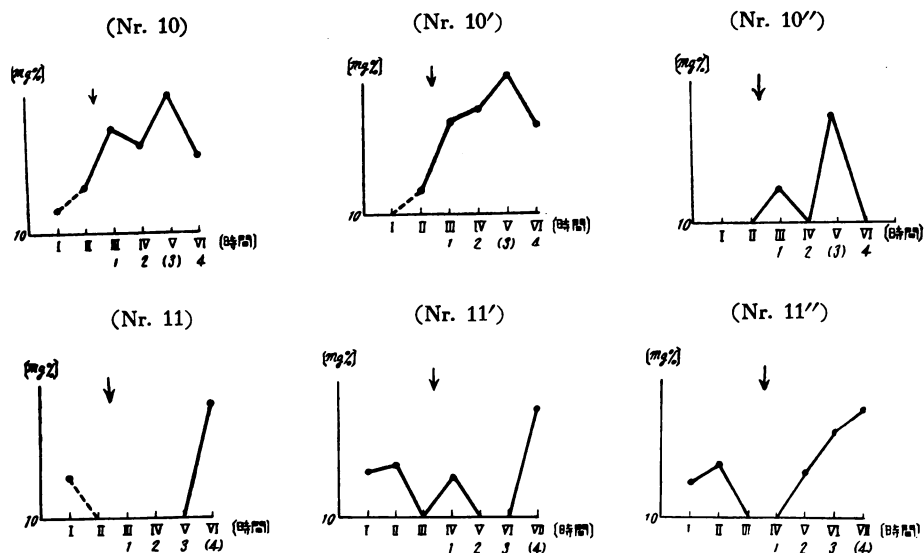
(Nr. 1')



(Nr. 2)







各分類ノ特徴ハ第 2 表ノ如シ。

次ニ述ブルガ如ク検査例ノ大多數ハ排泄曲線番
號ノ Nr. 5 マデノ間ニ存在スルヲ以テ、Nr.

5 マデヲ正常範圍ト假定スレバ、Nr. 8 以下ハ明
カニ時間的偏位ヲ示シ、Nr. 6 及ビ Nr. 7 ハ
ソノ中間ニ位スルモノ、如シ。

第 2 表

排泄 曲線番號	(解説) 鹽酸「ヒスチジン」3 瓦負荷後定量可能 (10 mg % 以上)	排泄 曲線番號	(解説) 鹽酸「ヒスチジン」3 瓦負荷後定量可能 (10 mg % 以上)
Nr. 1	1 時間目 1 回限ノモノ	Nr. 7	2 時間目(大)ニシテ前(後)(小)ナルモノ (3 回又ハ 4 回)
Nr. 2	2 時間目 1 回限ノモノ	Nr. 8	2 時間目(大)、3 時間目(小)ナルモノ (2 回)
Nr. 3	1 時間目(大)、2 時間目(小) 2 回限ノ モノ	Nr. 9	2 時間目(大)ニシテ下降スルモノ (2 回又ハ 3 回)
Nr. 4	1 時間目(小)、2 時間目(大) 2 回限ノ モノ	Nr. 10	3 時間目(大)ニシテ前(後)(小)ナルモノ (3 回又ハ 4 回)
Nr. 5	1 時間目(大)ニシテ漸次下降スルモノ (3 回又ハ 4 回)	Nr. 11	4 時間目(大)ナルモノ (1 回、2 回又ハ 3 回)
Nr. 6	1 時間目(大)、3 時間目(小)ナルモノ (2 回)		

第二節 健常者ニ就テ

第一項 男子ノ場合

検査數ハ 10 例ニシテ、負荷後 10 mg % 以上ノ
定量可能ナリシモノハ 9 例ニシテ 90.0% ナリ。
而シテ排泄曲線番號ハ第 3 表ノ如シ。即チ Nr.
5 マデハ大多數ヲ占ムルヲ以テ、假ニ Nr. 5
マデヲ正常範圍トスレバ、9 例中 8 例ニシテ
88.9% ナリ。(1 例陰性ナリシハ注意事項ヲ忘
レ、過ツテ茶湯ヲ以テ服藥シタルモノニシテ、

之ハ後ニ茶ノアル成分モ、此検査法ニ妨害ヲ與
フルモノナルコトヲ、試験管内ニ於テモ知ルコ
トヲ得タリ)。

次ニ負荷後ニ於ケル尿 5 珎中ノ「ヒ」量ハ最高
54.2 mg %、最低 11.0 mg % ナリ。又尿量ニ據
ル計算値ヲ求ムレバ、最大 1145.2 mg %、最小
96.6 mg % ニシテ、9 例ノ平均値ハ 521.3 mg
% ナリ。又前日同時刻ニ於ケル「ヒ」量 10 mg %

第 3 表 健 常 者

性別 排泄 曲線 番 號	男	女	(計)	性別 排泄 曲線 番 號	男	女	(計)
Nr. 1	3	1	4	Nr. 7	0	0	0
Nr. 2	1	1	2	Nr. 8	0	1	1
Nr. 3	2	2	4	Nr. 9	0	0	0
Nr. 4	1	1	2	Nr. 10	0	1	1
Nr. 5	1($\frac{8}{9}$) (88.9%)	1($\frac{6}{8}$) (75.0%)	2($\frac{14}{17}$) (82.4%)	Nr. 11	0	0	0
Nr. 6	1	0	1	(計)	9(10)	8(9)	17(19)

以上ノモノハ 1 例モナシ。

第二項 女子ノ場合

検査數中 10 mg% 以上ノモノハ 8 例アリ 88.9%ニシテ、他ノ 1 例ハ弱陽性ナリ。ソノ排泄曲線番號ハ第 3 表ノ如クニシテ、Nr. 5 マデハ 6 例ナリ。Nr. 5 マデヲ正常範圍トスレバ 8 例中 6 例ニシテ 75.0%ナリ。次ニ負荷後ニ於ケル尿

5 耗中ノ「ヒ」量ハ最高 114.6 mg%、最低 13.4 mg%ニシテ、尿量ニ據ル計算値ハ最大 1559.3 mg%、最小 309.6 mg%ニシテ、8 例ノ平均値ハ 920.4 mg%ナリ。又前日同時刻ニ於ケルモノトノ差ハ第 1 例 1408.3 mg%、及ビ第 8 例 476.4 mg%ノ例ニ於テ認メタリ。

第三節 患者ニ就テ

第一項 男子ノ場合

検査數 51 例中 10mg% 以上ノモノ 34 例ニシテ 66.7%ナリ。之ヲ健常男子ニ比スレバ 23.3%少シ。ソノ他ハ弱陽性 5 例ニシテ中等症 4 例、輕症 1 例ナリ。又陰性ハ 12 例アリテ重症 4 例、中等症 6 例、輕症 2 例ナリ。ソノ排泄曲線番號ハ第 4 表ノ如シ。Nr. 5 マデヲ正常範圍トスレバ 34 例中 20 例ニシテ 58.8%ナリ。之ヲ健常男子ニ比スレバ 30.1%少シ。即チ之ハ排泄曲線ノ偏

位ヲ示スモノニシテ、排泄時間ノ遅延セルコトヲ意味スルモノナリ。

次ニ負荷後ニ於ケル尿 5 耗中ノ「ヒ」量ハ最高 77.4 mg%、最低 10.2 mg%、尿量ニ據レル計算値ハ最大 1477.4 mg%、最小 97.6 mg%ニシテ、34 例ノ平均値ハ 561.5 mg%ナリ。又前日同時刻ニ於ケルモノトノ差ハ第 9 例 780.1 mg%、第 20 例 1169.7 mg%、第 22 例 879.4 mg%、第 34 例 561.1 mg%、第 35 例 530.6 mg%及ビ

第 4 表 患 者

性別 排泄 曲線 番 號	男	女	(計)	性別 排泄 曲線 番 號	男	女	(計)
Nr. 1	3	2	5	Nr. 7	8	1	9
Nr. 2	3	5	8	Nr. 8	3	2	5
Nr. 3	5	2	7	Nr. 9	0	3	3
Nr. 4	6	3	9	Nr. 10	1	1	2
Nr. 5	3($\frac{20}{34}$) (58.8%)	0($\frac{12}{20}$) (60.0%)	3($\frac{32}{54}$) (59.3%)	Nr. 11	0	1	1
Nr. 6	2	0	2	(計)	34(51)	20(29)	54(80)

第 47 例 735 mg%ノ 6 例ニ於テ認メタリ。

第二項 女子ノ場合

検査數 29 例中 10 mg% 以上ノモノ 20 例ニシテ

68.9%ナリ。之ヲ健常女子ニ比スレバ 20.0%少シ。ソノ他ハ弱陽性 8 例(中等症 3 例、輕症 5 例)ニシテ、陰性ハ中等症ノ 1 例ナリ(重症者ニ

就テハ検査セズ)。而シテ排泄曲線番號ハ第4表ノ如シ。Nr. 5 マデヲ正常範圍トスレバ20例中12例ニシテ60.0%ナリ。之ヲ健常女子ニ比スレバ15.0%少シ。即チ之ハ排泄曲線ノ偏位ヲ示スモノニシテ、男子ノ場合ト同様ニ排泄時間ノ遅延セルコトヲ意味スルモノナリ。次ニ負荷後ニ於ケル尿5珎中ノ「ヒ」量ハ最高68.1mg%、最低11.7mg%ニシテ、尿量ニ據ル計算値ハ最大1264.2mg%、最小46.8mg%ニシテ、20例ノ平均値ハ490.8mg%ナリ。又前日同時刻ニ於テ、10mg%以上ノモノハ1例モナシ。尙男女合計ニ於テNr. 5 マデヲ採ル時ハ、健常者ノ82.4%ニ對シテ59.3%ニシテ23.1%少シ。即チ是等ニ據ツテ、肺結核患者ノ場合ハ健常者ノ場合ニ比シテ、排泄時間ガ概シテ稍々遅延セルヲ認メラル。

(健常者ノ例數少キヲ遺憾トス)。

第三項 病症別

排泄曲線番號ヲ重症、中等症及ビ輕症ノ各病症別ニ區別スレバ第5表ニ示スガ如シ。

- 1) 重症ニ於テハ男子7例中10mg%以上ノモノ3例ニシテ、Nr. 4ニ2例トNr. 8ニ1例トノ3例ナリ。
- 2) 中等症ニ於テハ男子29例中10mg%以上ノモノ19例ニシテ、排泄曲線番號Nr. 5マデハ52.6%ナリ。女子ハ21例10mg%以上ノモノ17例ニシテ、排泄曲線番號Nr. 5マデハ64.7%ナリ。
- 3) 輕症ニ於テハ男子15例中12例ニシテ、排泄曲線番號Nr. 5マデハ66.7%ナリ。女子ハ8例中3例ニシテ、Nr. 4、Nr. 7及ビNr. 8ノ各1例宛ナリ。

第 5 表 病 症 別

排泄曲線 番號		(Nr.	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	(計)		
		1													
病症別	重	男 3 (7)	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	3	3 (7)
	女	(一)													
中	男	19 (29)	0	2	4	2	2 (52.6%)	2	5	1	0	1	0	19	36 (50)
	女	17 (21)	2	5	2	2	0 (64.7%)	0	0	1	3	1	1	17	
輕	男	12 (15)	3	1	1	2	1 (66.7%)	0	3	1	0	0	0	12	15 (23)
	女	3 (8)	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	3	
(計)		(男51 女29)(80)	5	8	7	9	3	2	9	5	3	2	1	(男34 女20)(80)	54 (80)

茲ニ病勢ト尿中「ヒスチジン」排泄状態トノ間ノ關係ニ就テハ、未ダ其ノ例數少キヲ以テ、確言

スル事ヲ得ザルモ重病者ニ該反應陰性例多キガ如キ傾向ヲ見ル。

第四章 總括及ビ考按

以上ノ検査成績ニ據ツテ肺結核患者ニ鹽酸「ヒ」ヲ經口的ニ投與スルニ、健常者ノ場合ニ比シ、一般ニ「ヒ」ノ尿中ニ排泄證明セラル、率(10mg%ノ陽性例)ハ少ク、且ツツノ排泄時間ノ概シテ稍々遅延スルモノ多キヲ認メタリ。

茲ニ改メテ排泄曲線型ヲ次ノ如ク2群ニ分チテ、上述ノ關係ヲ再検討スルニ、亦明カニ排泄遅延ノ存在スル事ヲ證シ得タリ。

即チ

第1群。「ヒ」投與後1時間ニシテ最高値(「ヒ」

量)ニ達スルモノ。

- 1) 排泄速カナルモノ Nr. 1
- 2) 排泄遅延スルモノ Nr. 3, Nr. 5
- 3) 不規則ナルモノ Nr. 6

第2群。投與後1時間以後ニ於テ最高値ヲ示スモノ

- 1) 排泄速カナルモノ Nr. 2, Nr. 4
- 2) 排泄遅延スルモノ Nr. 7, Nr. 8, Nr. 10
- 3) 不規則ナルモノ Nr. 9, Nr. 11

第1群ニ屬スルモノ、健常者ニテハ64.7%、患者ニテハ31.5%ニシテ、第2群ニ屬スルモノ、健常者ニテハ35.3%、患者ニテハ68.5%ナル

第 6 表

健患別		健 常 者		患 者	
群 別	I	4		5	
第一群	II	6	64.7%	10	31.5%
	III	1		2	
		11		17	
第二群	I	4	35.3%	17	68.5%
	II	2		16	
	III			4	
		6		37	
		17		54	

ヲ知リタリ。

「ヒ」排泄量ノ關係ニ於テハ、男子ニテハ健常者ノ場合ニ比シ、差僅少ナリシガ、女子ニ於テハソノ量、健常者ノ排泄量ノ約半量ナルヲ證シタルモ、ソノ理由ハ不明ナリ。検査例數ノ少カリシ關係上、各病症例間ノ差違ニ就テハ論ジ難キモ、上ニモ述ベタルガ如ク重症例ニ反應陰性者多キ傾キヲ認ム。

偕テ肺結核患者ニ於テ、經口的ニ投與シタル「ヒ」ノカ、ル排泄遅延ノ原因果シテ如何ノ問題ハ、今後更ニ研索スベキ興味アル事項ニ屬ス。「ヒ」負荷後ノ尿中排泄ガ、該反應ノ定量値以下ノ弱陽性又ハ陰性ナリシ例ニ就テハ、ソレガ「ウロカーン」酸トナリテ排泄セラレタルモノカ、(5)、(15)、(77)、又ハ腸管内ノ微生物ノ作用ニ依テ、「ヒスタミン」ノ如キ物質トナリテ排泄セラレタルモノカ、(73)、(74)、(75)、或ハ尿中ニ呈色反應ヲ妨碍スルガ如キ物質ガ、新ニ混在スル爲カ、(81)、(82)未ダ之ヲ闡明スルニ至ラザリシモ、亦検討スベキ項目ナリト思ハル。(附記)。Kapeller-Adler氏等ハ亞硝酸鹽ヲ含有スル尿ハ氏ノ從來ノ「ヒ」反應ヲ妨碍スルコトヲ發見シ、最近ソノ改良法ヲ發表セリ(82)。

第五章 結 辭

- 1) 人體ニ鹽酸「ヒ」3瓦ヲ經口的ニ投與シタルニ、ソノ尿中ニ排泄セラレ、ヲ證シ、ソノ排泄様式ニヨツテ一定ノ曲線型ヲ分類セリ。
- 2) 肺結核患者ノ場合ハ健常者ノ場合ニ比シテ、ソノ排泄時間ノ遅延スルモノ多キヲ認メタリ。
- 3) 重症ニ於テハ輕症、中等症ニ比シテ、カ、

ル「ヒ」ノ排泄ノ陰性ナル場合多シ。

- 4) 肺結核患者ニ於ケルカ、ル負荷後尿中「ヒ」ノ排泄遅延ハ、恐ラク物質代謝障碍ノ爲メナラン。

稿ヲ終ルニ當リ、御校閲ヲ賜リタル院長太繩博士、竝ニ御指導ト御校閲ヲ賜リタル醫長渡邊博士ニ對シテ、衷心ヨリ感謝ス。

文 獻

- 1) 山名, (結核, 第14卷, 第11號, 1162頁, 昭11).
- 2) 古武, (大阪醫學會雜誌. 第20卷, 845頁, 大10).
- 3) 古武, 正井, 森, (大阪醫學會雜誌. 第20卷, 856頁, 大10).
- 4) 古武, 金井, (大阪醫

- 學會雜誌, 第20卷, 1032頁, 1037頁, 大10).
- 5) Kotake u. Konishi, (Hoppe-Seylers Zeitschr. Bd. 122. S. 230, 1922).
- 6) 岡川, 三吉, (大阪醫學會雜誌, 第20卷, 944頁, 大10).
- 7) 金井, (大阪醫學會雜誌. 第20卷, 1037頁, 大10).
- 8) 平

- 澤, (大阪醫學會雜誌. 第21卷, 739頁, 大11).
9) 小西, (大阪醫學會雜誌. 第23卷, 565, 575, 580, 584, 大13). 10) 小西, (兒科雜誌. 299號, 大14). 11) 吉岡, (大阪醫學會雜誌. 第23卷, 865頁, 大13). 12) 吉松, (大阪醫學會雜誌. 第23卷, 463頁, 大13). 13) 近野, (大阪醫學會雜誌. 第24卷, 757頁, 大14). (大阪醫學會雜誌. 第25卷, 101, 1679, 大15). 14) 野々上, (大阪醫學會雜誌. 第27卷, 1851, 2119, 昭3). 15) 清川, (大阪醫學會雜誌. 第30卷, 3247頁, 昭6). 16) 清川, (大阪醫學會雜誌. 第34卷, 665頁, 昭10). 17) 賴導, 中田, (大阪醫學會雜誌. 第35卷, 409頁, 昭11). 18) 瀨良, (日本生化學會會報. 7卷, 56, 昭7). 19) 瀨良, (日本學術協會會報. 9卷, 194, 昭9). 20) 瀨良, (日本生化學會會報. 11卷, 3, 昭11). 21) 瀨良, 藤井, (大阪醫學會雜誌. 34卷, 2269, 昭10). 22) 瀨良, 矢田, (大阪醫學會雜誌. 35卷, 5號, 昭11). 23) 藤井, (大阪醫學會雜誌. 34卷, 577, 587, 1117, 昭10). 24) 正井, 福富, (大阪醫學會雜誌. 25卷, 933, 大15). 25) 増井, (大阪醫學會雜誌. 27卷, 1461, 2225, 昭3). 26) 増井, 平谷, (大阪醫學會雜誌. 28卷, 1219, 昭4). 27) 三宅, (大阪醫學會雜誌. 29卷, 329, 337, 昭5). 28) 石川正信, (大阪醫學會雜誌. 31卷, 2059, 昭7). 29) 關根, 平谷, 石川, (大阪醫學會雜誌. 32卷, 2489, 昭8). 30) 長崎, 岡川, (關西醫事. 3卷, 4號4, 昭6). (大阪醫事新誌. 2卷, 9號, 1223, 昭6). 31) 岡川, 一色, 安藤, (大阪醫學會雜誌. 30卷, 4533, 昭6). (日本藥物學雜誌. 12卷, 3號, 昭6). 32) 南, 西山, (日本藥物學雜誌. 12卷, 3號, 64, 昭6). 33) 寺井, 野村, (大阪醫學會雜誌. 34卷, 1163, 昭10). 34) 中島, (大阪醫學會雜誌. 35卷, 979, 昭11). 35) 今泉, (大阪醫學會雜誌. 35卷, 1355, 昭11). 36) 堀見, 猪尾, 伊藤, (大阪醫學會雜誌. 35卷, 1699, 昭11). 37) 中川, 櫻井, (大阪醫學會雜誌. 25卷, 247, 大15). 38) 秋山, 高階, (大阪醫學會雜誌. 25卷, 1975, 大15). (大阪醫學會雜誌. 27卷, 4號, 昭3). 39) 佐々木, [現代醫學大辭典(生化學篇)]. 40) 辻, (京都醫學會雜誌. 15卷, 2號, 大7). 41) 荒井, (日本內科學會雜誌. 8卷, 3號, 176, 大9). 42) 清水, (大阪醫學會雜誌. 22卷, 11號, 大12). 43) 和田, (慶應醫學. 9卷, 3號, 369, 昭3). 44) 吉田, (長崎醫學會雜誌. 7卷, 2號, 昭4). 45) 佐藤, (大阪醫學會雜誌. 29卷, 523, 昭5). 46) 香川, (大阪醫學會雜誌. 29卷, 3477, 昭5). 47) 足立, (日本內科學會雜誌. 19卷, 5號, 650, 昭6). 48) 石川房吉, (北海道醫學雜誌. 9年, 2169, 昭6). 49) 向坂, (日本生化學會會報. 8卷, 3號, 68, 昭8). (福岡醫科大學雜誌. 27卷, 4號, 910, 昭9). 50) K. Hirai, Acta Scholae Med. Univ. Imp. Kioto. 3, 49, 1918). 平井, (日本生化學會會報. 8卷, 4號, 139, 昭8). 51) 小川, (日本消化機病學會雜誌. 35卷, 5號, 昭11). 52) Edelbacher, (Zeitschr. f. physiol. Chem. Bd. 157. S. 106, 1926). 53) Kapeller-Adler, (Biochem. Zeitschr. Bd. 272. S. 341, 1934). 54) Weiss u. Aron, (Compt. rend. de la soc. biol. 112, 1526, 1528, 1530; 1930). 55) Bogendoerfer, (Münch. med. Wschr. Nr. 33. S. 1270, 1934). 56) Hessel, (Münch. med. Wschr. Nr. 49. S. 1890, 1934). 57) Winter, (Med. Kl. Nr. 31. S. 681; Nr. 42. S. 1367, 1935). 58) Bancke, (Dtsch. med. Wschr. Jg. 61. Nr. 38. S. 1510, 1935). 59) Ofofelein, (Kl. Wschr. Jg. 14. Nr. 45. S. 1599, 1935). 60) 櫻澤, 中島, (實驗醫報. 21年. 251號, 1611, 昭10). 61) 櫻澤, (東西醫學. 2卷, 11號, 1119, 昭10). 62) 豐島, 神前, (實驗醫報. 21年, 251號, 1619, 昭10). 63) 豐島, (臨牀醫學. 23年, 9號, 1442, 昭10). (實驗醫報. 255號, 469, 昭11). 64) 松尾, (實驗消化器病學. 10卷, 10號, 1427, 昭10). 65) 松本, (大阪醫事新誌. 7卷, 2號, 319, 昭11). (實驗醫報. 22年, 257號, 724, 昭11). 66) Craps u. Alechinsky, (Presse. Méd. 1934, Nr. 104, 2100). 67) 久保, (耳鼻咽喉科臨牀. 31卷, 1號, 36, 昭11). 68) Hautschmann u. Steube, (Kl. Wschr. Jg. 7. Nr. 14. S. 637, Nr. 22. S. 1037, 1928). 69) Messina, Raffaele, (Z. bl. f. d. gesam. Tuberk. f. Bd. 43. S. 604, 1936). 70) Kauffmann u. Engel, (Zeitschr. f. Kl. Med. Bd. 114, S. 405, 1930). 71) 谷, (大阪醫學會雜誌. 24卷. 1457, 大14). 72) 荒川, 爲近, (日本消化機病學會雜誌. 35卷, 379, 昭11). 73) Ackermann, (Hoppe-Seyler's Zeitschr. f. physiol. Chem. 65, 504, 1910). 74) Berthelot u. Berthram, (Cpt. rend. hebdom. des séances de l'acad. des Sciences, 156, 1643. u. 1826, 1912). 75) Mellanby u. Twort, (Journ. of Physiol. 45, 53, 1912-1913). 76) Ehrlich, (Biochem. Zeitschr. 36, 479, 1911). 77) Raistrick, (Biochem. Journ. II, 71, 1907). (zit. Chem. Z. II, 226, 1917). 78) Edlbacher u. J. Kraus, (Hoppe-Seyler's Z. schr. f. physiol. Chem., 191, 56, 1930). 79) Andrezejewsky, A., (Zeitschr. f. Tuberkulose, Bd. 3, H. 4, S. 360, 1902). 80) 宮崎, (大阪醫學會雜誌. 24卷, 321, 大14). 81) Klempner, (Klinische Diagnostik, S. 177, 24. Auflage). 82) Kapeller-Adler, (Kl. Wschr. Jg. 15. Nr. 47. S. 1728, 1936).